

## 明日に向かって

これまで先人たちの努力によって、全国屈指の文化性と都市機能を誇って発展してきた芦屋市。あらゆる分野で国際化・情報化がすすむ現在も、昭和61年12月にスタートした新総合計画に基づいて、誇りと愛着を感じるまちづくりが展開されています。

都市型CATVの開局や伊勢町文化ゾーンの完成のほか、JR芦屋駅前北地区の再開発事業や芦屋沖地区として誕生する新しいまちが、さらに魅力ある「芦屋」を実現してくれるでしょう。

芦屋市は21世紀に向けて、内外に誇れる「国際文化住宅都市」を旨として力強く歩んでいます。



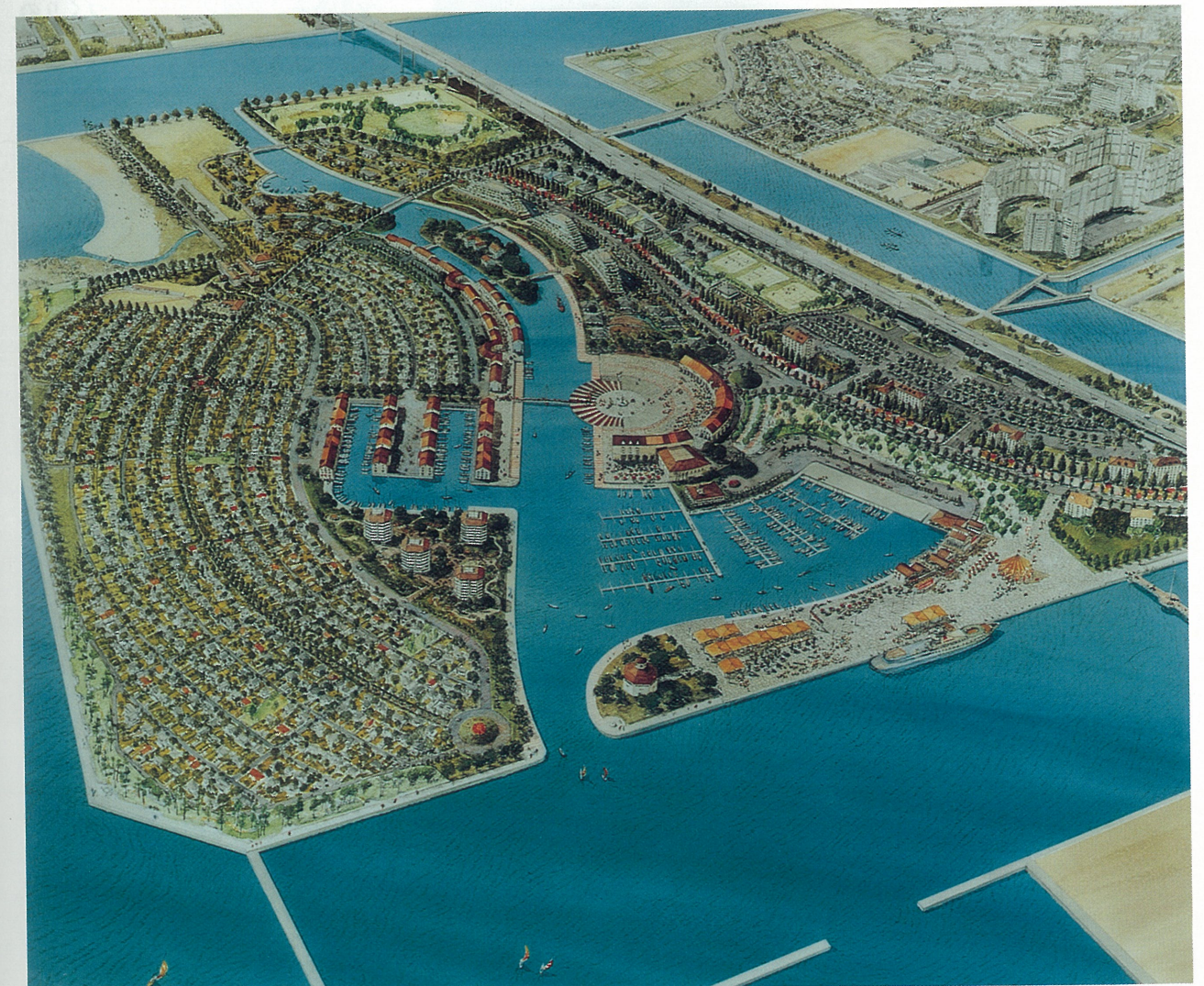
新市庁舎完成予想図 将来のOA化にも対応できる設備を備えた地上4階地下3階建ての新庁舎が平成2年11月完成。



芦屋沖埋立地

## 芦屋沖埋立工事

芦屋沖150メートルに126ヘクタールを埋め立て、親水性を高めるため、マリーナや東西に貫く水路・人工ビーチを設けます。



芦屋沖地区完成予想図 埋立地は平成7年度末完成、まちづくりは12年度末に完了の予定。完成時には、新西宮ヨットハーバーとあわせ日本最大級のマリーナが整備され、魅力ある海上都市ができる。



## 大原地区

アルパ、ラポルテ、ラリーブと続いたJR芦屋駅前再開発事業。平成2年度から後半の大原地区に着手し、6年3月完成を旨として、21世紀を見つめた都市機能の充実と利便性を図りながら、心にゆとりのもてるまちづくりをすすめていきます。



**大原第1地区完成予想図** 芦屋のもつ閑静でユニークな雰囲気を取り入れるため、駅前再開発のメインテーマである「芦屋ブランド」づくりの役割分担として、施設計画のテーマに「空間」をかけた、自分の好みにあった物が発見でき、また個性的でリッチな生活ドラマを演出する施設を提供。



現在工事中の大原地区

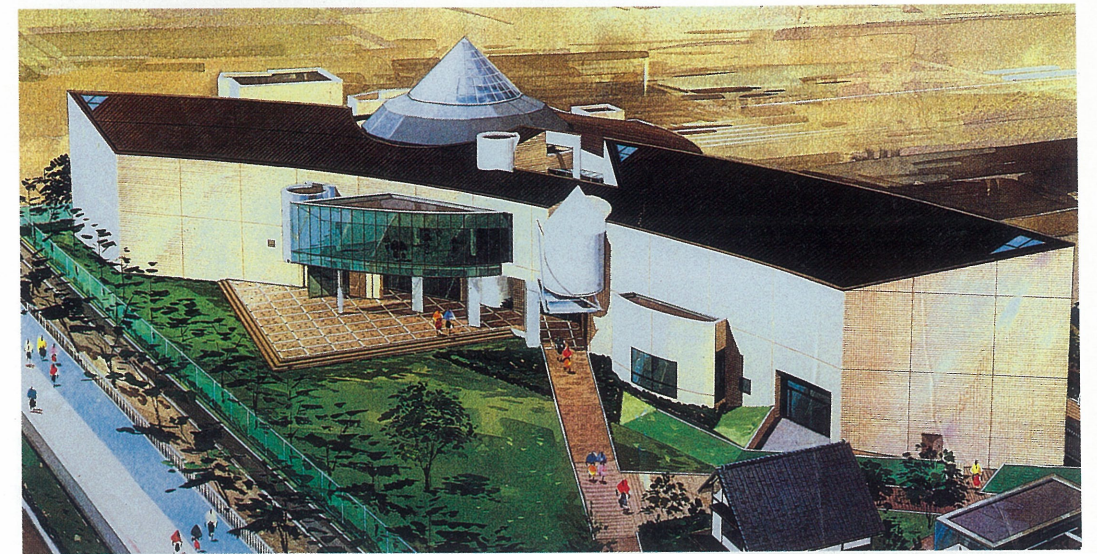
**大原第2地区完成予想図** 駅前再開発事業のメインゾーンに位置するこの地区には、大型店や専門店を配し、あわせて地域サービスへの情報産業を取り入れた施設計画を行い、芦屋ブランドとしての生活と情報の場を提供。



## 文化ゾーン

優れた都市機能と利便性を備えたうえに、心のゆとりをもてるようなまち、芦屋市ではそんなまちづくりを旨としています。

新図書館の建設にはじまった伊勢町文化ゾーンの整備も、市制施行50周年を迎える今年、美術博物館の竣工をもって完成しました。



美術博物館パース

## CATV開局

市制施行50周年事業の一環として、阪神間で初めてケーブルテレビが開局しました。平成2年4月から試験放送を続け、10月からいよいよ本放送が始まりました。

近い将来は、42の多チャンネルサービスが予定されています。



CATVの放送局



## 芦屋市の主な施設

市役所	精道町7-6	☎31-2121
打出教育文化センター	打出小槌町15-9	☎23-6325
カウンセリングセンター	川西町15-3	☎23-5998
青少年愛護センター	川西町15-3	☎31-8229
市民センター(市民会館・公民館)	業平町8-24	☎31-4995
図書館	伊勢町12-5	☎31-2301
谷崎潤一郎記念館	伊勢町12-15	☎23-5852
富田碎花旧居	宮川町4-12	☎32-0237
青少年野外活動センター	奥山1-1	☎23-3903



ラポルテ市民サービスコーナー 船戸町4-1-308(ラポルテ3階) ☎31-3130



教育委員会 公光町5-13 ☎31-2121



消防本部 精道町8-26 ☎32-2345



消防署高浜分署 高浜町7-2-104 ☎34-0717



消防署東山出張所 東山町27-8 ☎32-6843



芦屋病院 朝日ヶ丘町39-1 ☎31-2156



保健センター 公光町5-10 ☎31-1586



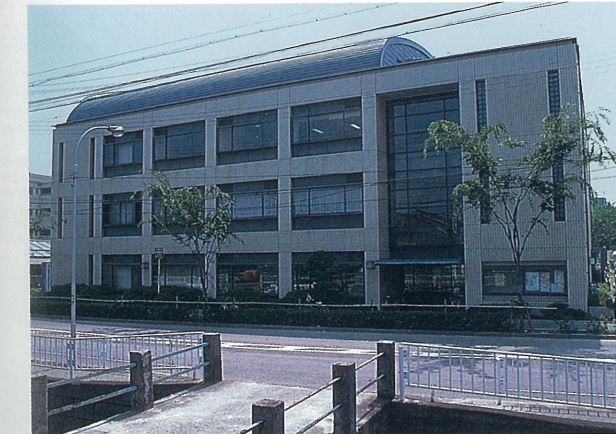
環境処理センター 浜風町31-1 ☎32-5391



霊園事務所 朝日ヶ丘町37-17 ☎22-5825



下水処理場 若葉町1-2 ☎32-1291



上宮川文化センター(隣保館・児童センター) 上宮川町10-5 ☎22-9229



体育館・青少年センター 川西町15-3 ☎31-8228



海浜公園プール 浜風町30-1 ☎34-2360



市民プール 朝日ヶ丘町11-11 ☎32-3920





川西運動場 川西町14-17 ☎31-8228



芦屋中央公園野球場 若葉町1-1 ☎31-8228



打出集会所 南宮町15-9 ☎23-2329



竹園集会所 竹園町5-6 ☎22-2484



翠ヶ丘集会所 翠ヶ丘町9-15 ☎22-2475



前田集会所 前田町9-11 ☎23-3899



朝日ヶ丘集会所 朝日ヶ丘町30-9 ☎23-4896



春日集会所 春日町13-17 ☎32-5377



潮見集会所 潮見町7-1 ☎32-4359



浜風集会所 浜風町3-2 ☎38-0960



奥池集会所 奥池南町34-4 ☎32-0763



西蔵集会所 西蔵町11-16 ☎32-0764



福祉会館・老人福祉会館 業平町8-5 ☎32-7530



大原老人憩の家 大原町23-1 ☎31-7873



三条老人憩の家 三条町9-14(三条会館) ☎32-3098



養護老人ホーム“和風園” 朝日ヶ丘町39-20 ☎23-0485



### 歴代市長

歴順	氏名	就任	退任
1	大利市右衛門	昭和16年1月31日	昭和20年1月30日
2	長岡喜十郎	20年2月5日	21年12月4日
3	杉岡藤右衛門	22年4月5日	23年8月15日
4	猿丸吉左衛門	23年10月1日	27年9月6日
5	内海清	27年9月16日	31年9月15日
6	内海清	31年9月16日	35年9月15日
7	内海清	35年9月16日	39年9月15日
8	渡辺万太郎	39年9月16日	43年9月15日
9	渡辺万太郎	43年9月16日	47年9月15日
10	渡辺万太郎	47年9月16日	50年3月31日
11	松永精一郎	50年4月27日	54年4月26日
12	松永精一郎	54年4月27日	58年4月26日
13	松永精一郎	58年4月27日	62年4月26日
14	山村康六	62年4月27日	現在

### 歴代市議会議長

歴順	氏名	就任	退任
1	山村伊左衛門	昭和16年1月9日	昭和18年1月28日
2	天王寺谷忠左衛門	18年1月28日	20年1月16日
3	杉岡藤右衛門	20年1月16日	21年11月29日
4	山村利左衛門	21年11月29日	22年4月30日
5	堺谷巳之助	22年5月23日	24年5月18日
6	山村利左衛門	24年5月18日	25年5月26日
7	山村利左衛門	25年5月26日	26年4月30日
8	作間昇	26年5月12日	27年5月28日
9	南野辰之助	27年5月28日	28年5月25日
10	南野辰之助	28年5月25日	29年5月28日
11	南野辰之助	29年5月28日	30年4月30日
12	南野辰之助	30年5月19日	31年5月28日
13	南野辰之助	31年5月28日	32年5月28日
14	南野辰之助	32年5月28日	33年6月6日
15	南野辰之助	33年6月6日	34年4月30日
16	南野辰之助	34年5月18日	35年6月3日
17	南鶴太郎	35年6月3日	36年6月10日
18	久堀幸雄	36年6月10日	37年6月11日
19	井田建次郎	37年6月11日	38年4月30日
20	久堀幸雄	38年5月20日	39年5月27日
21	鶴田秋太郎	39年5月27日	40年7月15日
22	鶴田秋太郎	40年7月15日	41年7月20日
23	鶴田秋太郎	41年7月20日	42年4月30日
24	神井清太郎	42年5月20日	43年5月27日
25	神井清太郎	43年5月27日	44年5月28日
26	神井清太郎	44年5月28日	45年6月30日
27	極楽地彦	45年6月30日	46年4月30日
28	神井清太郎	46年5月14日	47年5月22日
29	神井清太郎	47年5月22日	48年3月15日
30	小田護	48年3月23日	48年10月6日
31	小田浅治	48年10月6日	49年3月25日
32	小田藤介	49年3月25日	49年11月30日
33	極楽地彦	49年11月30日	50年4月30日
34	山村本二	50年5月19日	50年10月23日
35	山村上雄	50年10月23日	51年5月17日
36	下川満	51年5月17日	52年5月19日
37	下川藤信之介	52年5月19日	53年5月26日
38	下川藤信之介	53年5月26日	54年4月30日
39	下川満	54年5月22日	55年5月23日
40	下川満	55年5月23日	56年5月21日
41	下川藤信之介	56年5月21日	57年5月18日
42	下川藤信之介	57年5月18日	58年4月30日
43	山崎哲男	58年5月19日	59年5月18日
44	山崎哲男	59年5月18日	60年5月24日
45	久堀幸雄	60年5月24日	61年5月20日
46	田中武夫	61年5月20日	62年5月18日
47	都筑省三	62年5月18日	63年5月20日
48	都筑省三	63年5月20日	平成元年5月24日
49	鈴本正	平成元年5月24日	元年9月28日
50	杉本茂	元年9月28日	2年5月25日
51	都筑省三	2年5月25日	現在



# 人口の推移

区分 年次	世帯数	人 口			面 積 km <sup>2</sup>	備 考
		総 数	男	女		
	世帯	人	人	人		
明治22年	597	3,285	...	...		村制施行
27	608	3,324	...	...		
32	630	3,426	...	...		
37	639	3,452	...	...		
42	762	3,904	...	...		
大正3年	1,131	5,298	...	...		
9	2,269	11,151	5,480	5,671		第1回国勢調査
14	3,886	19,101	9,026	10,075		2 //
昭和5年	5,708	28,731	13,302	15,429		3 //
10	6,979	35,715	17,082	18,633		4 //
15	8,147	41,925	20,343	21,582	15.78	5 // 市制施行
20	7,086	31,098	15,300	15,798	//	人口調査(11.1)
22	8,666	37,033	18,139	18,894	//	第6回国勢調査
25	9,785	42,951	21,493	21,458	//	7 //
30	11,588	50,960	25,030	25,930	15.19	8 //
31	11,778	51,787	25,264	26,523	//	推計人口(10.1)
32	12,317	53,456	26,060	27,396	16.06	//
33	12,510	53,724	26,095	27,629	//	//
34	12,775	53,911	26,183	27,728	//	//
35	14,221	57,050	27,894	29,156	//	第9回国勢調査
36	14,433	58,180	28,505	29,675	//	推計人口(10.1)
37	15,017	59,928	29,424	30,504	16.07	//
38	15,363	61,188	30,201	30,987	//	//
39	15,446	62,098	30,676	31,422	//	//
40	17,082	63,195	30,689	32,506	//	第10回国勢調査
41	17,429	63,873	30,932	32,941	//	推計人口(10.1)
42	17,250	64,563	31,189	33,374	//	//
43	17,826	64,645	30,847	33,798	//	//
44	18,856	66,878	31,856	35,022	//	//
45	20,690	70,938	34,132	36,806	//	第11回国勢調査
46	21,175	72,016	34,521	37,495	//	推計人口(10.1)
47	21,681	73,857	35,517	38,340	//	//
48	22,254	75,184	36,042	39,142	//	//
49	22,231	75,740	36,256	39,484	//	//
50	23,829	76,211	36,855	39,356	//	第12回国勢調査
51	23,277	75,332	36,274	39,058	//	推計人口(10.1)
52	23,474	75,453	36,332	39,121	17.31	//
53	23,340	75,092	36,044	39,048	//	//
54	24,607	78,600	37,665	40,935	//	//
55	28,614	81,745	38,996	42,749	//	第13回国勢調査
56	29,020	82,614	39,274	43,340	//	推計人口(10.1)
57	29,325	83,570	39,638	43,932	//	//
58	30,133	85,709	40,712	44,997	//	//
59	30,560	86,735	41,151	45,584	//	//
60	30,743	87,127	41,275	45,852	//	第14回国勢調査
61	30,928	87,232	41,172	46,060	//	推計人口(10.1)
62	31,622	88,553	41,642	46,911	//	//
63	31,929	88,623	41,615	47,008	//	//
平成元年	32,077	87,841	41,208	46,633	//	//
2	32,419	87,879	41,228	46,651	//	//

(注) 推計人口は、国勢調査における確定数を基礎とし、その後毎月住民基本台帳法及び外国人登録法に基づく当該月間の移動数の報告を受け、その報告を集計したものである。

# 文 献

## 【市制施行理由書】「市制施行ニ関スル概」昭和十四年（一九三九）

本村ハ兵庫県ノ東南部、大阪・神戸二大都市ノ中間ニ位シ、東ハ西宮市、西ハ武庫郡本山村・本庄村ニ接シ、南ハ茅渚海ヲ隔テ紀州半島ニ相対ス、北ハ六甲ノ連峯ヲ以テ有馬郡ニ境ス、北緯三十四度四十四分、東経百三十五度十九分ニ位置シ、面積一、〇二三方里、概ネ傾斜地ニシテ高級住宅地、所謂田園都市・文化都市「芦屋」トシテ国内ハ固ヨリ、遠ク海外迄知ラルル所ナリ  
 今ヤ現住戸数七千九百七十四戸、人口四万一千七十人ニシテ、全村殆ンド市街地ヲ形成シ街衢殷賑ヲ呈シツツアリ  
 交通機関ハ省線ヲ始メ、阪神・阪急及国道線等東西ニ貫通シ、各数ヶ所ノ停車場ヲ置キ、又村内ハ隅々ニ至ル迄区割製理ハ行届キ、道路整然トシテ、乗合自動車四通八達シ、交通極メテ至便ナリ  
 官公衛ハ神戸区裁判所出張所・警察署・二等郵便局一・三等郵便局四・職業紹介所等アリ  
 教育施設トシテハ私立高等女学校・村立小学校四・私立小学校一・男女青年学校二・村立幼稚園四・私立幼稚園四等アリ、又目下中学校建設ノ準備中ニテ、昭和十五年度ヨリ開校ノ運ニ至ルハ必至ノ状勢ニアリ  
 衛生施設トシテハ伝染病院・塵芥焼却場・火葬場・上水道及下水道等完備ス  
 又公園ハ芦屋川東岸ノ松林一帯ヲ之ニ充テ、遊園地・運動場等ヲ

## 【市ノ名称ヲ「芦屋」ト定ムル理由】「市制施行ニ関スル概」昭和十四年（一九三九）

一「芦屋」ハ打出・三条・津知ト共ニ本村ノ一大字名ナルモ、本村ノ中央部ニ位シ、其ノ中間ヲ流ルル芦屋川ノ兩岸ニハ老松多ク、芦屋海岸ノ風光ト共ニ、高級住宅地芦屋トシテ今日ニ至リ、面積・戸数・人口等何レモ本村ノ大半ヲ占メ、今ヤ芦屋ノ名ハ全国ハ固ヨリ、遠ク海外ニ知ラルル所ニシテ、本村民ニ於テスラ本村ノコトヲ芦屋ト呼ビ、從テ隣接スル阪神間ニ於テモ一般ニ精道村ノ名ヲ知ラザルモノ多キ実状ニアリ

## 【芦屋国際文化住宅都市建設法】

### (目 的)

第 1 条 この法律は、芦屋市が国際文化の立場からみて恵まれた環境にあり、且つ住宅都市としてすぐれた立地条件を有していることにかんがみて、同市を国際文化住宅都市として外国人の居住にも適するように建設し、外客の誘致、ことにその定住を図り、わが国の文化観光資源の利用開発に資し、もって国際文化の向上と経済復興に寄与することを目的とする。

### (計画及び事業)

第 2 条 芦屋国際文化住宅都市を建設する都市計画（以下「芦屋国際文化住宅都市建設計画」という。）は、都市計画法（昭和43年法律第100号）第4条第1項に定める都市計画の外、国際文化住宅都市にふさわしい諸施設の計画を含むものとする。

2 芦屋国際文化住宅都市を建設する事業（以下「芦屋国際文化住宅都市建設事業」という。）は、芦屋国際文化住宅都市建設計画を実施するものとする。

### (事業の執行)

第 3 条 芦屋国際文化住宅都市建設事業は、芦屋市が執行する。

2 芦屋市の市長は、地方自治の精神に則り、その住民の協力及び関係諸機関の援助により、芦屋国際文化住宅都市を完成することについて、不断の活動をしなければならない。

設備ス、殊ニ海岸ハ防潮堤遊歩道ト共ニ白砂青松又海辺ハ遠浅ニシテ海水浴ニ適シ自然ノ大遊園地タリ  
 社会施設トシテハ特ニ見ルヘキモノナシト雖モ、実費診療所ヲ設置スヘクカ準備中ニシテ年度内ニハ開設ノ見込ニアリ  
 其ノ他警防ノ為メニハ本年度ヨリ常備消防ヲ設ケテカ完璧ヲ期シ居レリ、金融機関トシテハ三和銀行及神戸銀行ノ支店三・出張所一ノ外信用組合支部等アリ  
 以上ノ如ク各種ノ施設其ノ他概ネ備ハリ、最近ニ於ケル市制施行地ニ比シ各方面ヨリ観察スルモ別段劣ル処ナキヲ信ズ、而シテ本村ハ地理的其ノ他ノ状勢ヨリ益々発展スベキハ明ラカニシテ之ニ対応ヲ為スベキ施設頗ル多キヲ痛感ス、茲ニ於テ克ク百年ノ大計ヲ誤ルコトナク愈々文化都市、田園都市トシテ経営宜シキヲ得、堅実ナル進展ヲ遂ゲテ村民ノ福利増進ヲ図ラムニハ一ニ自治精神ノ刷新ヲ要スルノ切ナルモノアルハ一般ノ等シク認ムル処ナルト共ニ多年ノ宿望タリ

昨年ハ自治制発布五十周年ヲ迎ヘ全国的ニ之カ記念ノ式典ヲ挙ゲラレ、又明年ハ恰モ皇紀二千六百年ノ国家ヲ挙ゲテ慶祝スベキ年ヲ迎ヘムトス、此ノ時ニ於テ村民多年ノ要望ニ副フト共ニ光輝アル紀元二千六百年ヲ永遠ニ記念スベク市制ノ施行方ヲ上申スル所以ノモノ故ナシトセズ

一本村ニ在ル官公衛ノ名称ハ総テ「芦屋」ヲ冠シ、即チ省線芦屋駅・芦屋警察署・芦屋郵便局・芦屋電話分室・神戸職業紹介所・芦屋分室・芦屋高等女学校等ノナリ、又電話モ芦屋ヲ冠シ、阪神・阪急両電鉄ノ停留所モ芦屋又ハ芦屋川ト呼ビ、精道ヲ冠スルモノ更ニナシ

以上ノ理由ニ依リ、新市ノ名称ヲ世間一般ニ知ラルル「芦屋」ト定ムルヲ最モ適當ト認ムルニ依ル

### (事業の援助)

第 4 条 国及び地方公共団体の関係諸機関は、芦屋国際文化住宅都市建設事業が第1条の目的にてらし重要な意義をもつことを考え、この事業の促進と完成とにできる限りの援助を与えなければならない。

### (特別の助成)

第 5 条 国は、芦屋国際文化住宅都市建設事業の用に供するため必要があると認める場合においては、国有財産法（昭和23年法律第73号）第28条の規定にかかわらず、その事業の執行に要する費用を負担する公共団体に対し、普通財産を譲与することができる。

### (報 告)

第 6 条 芦屋国際文化住宅都市建設事業の執行者は、その事業がすみやかに完成するように努め、少くとも6箇月ごとに、建設大臣にその進行状況を報告しなければならない。

2 内閣総理大臣は、毎年1回国会に対し、芦屋国際文化住宅都市建設事業の状況を報告しなければならない。

### (法律の適用)

第 7 条 芦屋国際文化住宅都市建設計画及び芦屋国際文化住宅都市建設事業については、この法律に特別の定めがある場合を除く外、都市計画法の適用があるものとする。



# 略年表

## 1841 天保12年

猿丸安時が奥池の開さくを開始

## 1872 明治5年

9月 芦屋(精道小の前身)小学校・打出小学校開校

## 1874 明治7年

5月 大阪・神戸間に鉄道開通

## 1889 明治22年

4月 芦屋・打出・三条・津知の4村が合併して精道村が誕生

## 1905 明治38年

4月 阪神電車開通。芦屋・打出の2停留所設置

## 1908 明治41年

10月 電灯供給開始

## 1912 大正元年

8月 芦屋郵便局設置  
11月 ガスの供給開始

## 1913 大正2年

8月 東海道線芦屋駅開設

## 1914 大正3年

11月 電話交換事務開始

## 1916 大正5年

5月 精道村第1耕地整理組合設立  
(大正年間に第13組合まで設立)

## 1920 大正9年

7月 阪急電車開通。芦屋川停留所設置

## 1923 大正12年

6月 精道村役場の新庁舎竣工

## 1927 昭和2年

松風山荘住宅地の分譲開始  
4月 阪神国道(国道2号)開通  
5月 芦屋警察署設置  
7月 国道電車開通  
12月 宮川小学校開校

## 1929 昭和4年

六麓荘の開発開始

## 1934 昭和9年

1月 岩園小学校・山手小学校開校  
9月 室戸台風

## 1935 昭和10年

5月 下水道工事開始

## 1938 昭和13年

4月 村営上水道完成し給水開始  
7月 阪神大水害

## 1940 昭和15年

4月 県立芦屋中学校開校  
11月 市制施行(全国で173番目)

## 1945 昭和20年

8月 4回目の空襲に見舞われ、最大の被害を被る

## 1947 昭和22年

4月 市立精道中学校・市立山手中学校開校

## 1948 昭和23年

6月 第1回芦屋市美術展覧会開催  
7月 市営芦屋海水浴場開設  
8月 芦屋市農業協同組合創立  
11月 第1回市民体育祭開催  
12月 第1回童美展開催

## 1949 昭和24年

5月 市立図書館開館  
8月 第1回芦屋水練学校開校  
8月 広報あしや創刊号発刊

## 1950 昭和25年

9月 ジューン台風  
10月 芦屋市漁業協同組合創立  
10月 芦屋市消防本部設置  
12月 芦屋市教育委員会設置  
12月 芦屋国際文化住宅都市建設法案、国会で可決

## 1951 昭和26年

3月 芦屋国際文化住宅都市建設法公布  
6月 芦屋市社会福祉協議会発足

## 1952 昭和27年

7月 芦屋病院診療開始  
8月 県立芦屋高校全国高校野球大会に優勝

## 1953 昭和28年

3月 芦屋市霊園開設

## 1954 昭和29年

4月 市立公民館開館  
10月 芦屋10景選定

## 1956 昭和31年

甲南団地開発開始  
9月 芦屋庭球場完成  
10月 第11回国民体育大会(テニス・ピストル競技)開催

## 1957 昭和32年

10月 国鉄芦屋駅が快速電車停車駅に

## 1958 昭和33年

10月 第1回あしやまつり開催

## 1960 昭和35年

6月 芦屋ユースホテル完成  
8月 現市庁舎落成

## 1961 昭和36年

5月 合衆国モンテペロ市と姉妹都市提携  
9月 芦有道路開通  
9月 第2室戸台風

## 1962 昭和37年

3月 安全都市宣言  
4月 市立芦屋高等学校開校  
8月 新消防庁舎落成

## 1963 昭和38年

4月 上宮川会館開館  
10月 市立芦屋病院本館落成  
10月 第2阪神国道(国道43号)開通  
12月 市民会館完成(仏教会館から公民館も移る)

## 1964 昭和39年

奥池ハイランド開発開始  
5月 市民憲章制定・市旗制定  
5月 市立青少年センター開設

## 1965 昭和40年

北部土地区画整理事業開始  
10月 養護老人ホーム「和風園」開園

## 1966 昭和41年

7月 市民プール(朝日ヶ丘町)開設

## 1967 昭和42年

4月 みどり学級開設  
11月 市民文化賞制定

## 1968 昭和43年

7月 青少年野外活動センター開設

## 1969 昭和44年

11月 海浜埋立工事着手

## 1970 昭和45年

2月 阪神高速道路神戸線開通  
4月 ルナ・ホール開場  
10月 市の木「クロマツ」市の花「コバノミツバツツジ」制定

## 1971 昭和46年

3月 芦屋市総合計画策定  
4月 奥山貯水池(第2奥池)完成  
4月 健康センター開設

## 1972 昭和47年

4月 市立朝日ヶ丘小学校開校  
7月 体育館・青少年センター開館

## 1973 昭和48年

4月 緑ゆたかな美しいまちづくり条例制定

## 1974 昭和49年

3月 旧山邑邸国の重要文化財に指定  
7月 下水終末処理場通水開始

## 1975 昭和50年

3月 芦屋浜埋立地造成完成

## 1976 昭和51年

10月 市民センター別館(公民館・老人福祉会館・福祉会館)開館

## 1977 昭和52年

7月 環境処理センター完成

## 1978 昭和53年

4月 市立三条小学校開校

## 1979 昭和54年

3月 芦屋浜住宅団地入居開始  
4月 市立潮見小学校開校・市立潮見中学校開校・県立芦屋南高等学校開校  
8月 第1回サマーカーニバル開催

## 1980 昭和55年

11月 新芦屋10景選定

## 1981 昭和56年

4月 市立保健センター業務開始

## 1982 昭和57年

4月 市立打出浜小学校開校・市立浜風小学校開校



1983 昭和58年

11月 国鉄芦屋駅北地区再開発事業第1地区  
「アルパ芦屋」オープン

1986 昭和61年

3月 芦屋市新総合計画策定  
11月 国鉄芦屋駅北地区再開発事業第2地区  
「ラポルテ」オープン

1987 昭和62年

1月 ラポルテ市民サービスコーナーオープン  
5月 富田碎花旧居公開  
7月 新図書館開館

1988 昭和63年

4月 第1回さくらまつり開催  
10月 谷崎潤一郎記念館開館

1989 平成元年

6月 JR芦屋駅北地区再開発事業第3地区  
「ラリーブ」オープン  
6月 市制施行50周年記念事業テーマ  
「エレガント芦屋」に決定  
9月 市制施行50周年記念事業シンボルマーク決定  
10月 第1回秋まつり開催

1990 平成2年

1月 打出教育文化センター着工  
3月 JR芦屋駅が新快速電車停車駅に  
3月 特別養護老人ホーム「あしや聖徳園」  
「あしやホームケアセンター」開所  
10月 市立美術博物館完成  
10月 CATV開局  
11月 市増築庁舎完成  
11月 市制施行50周年記念式典



市花：コバノミツバツツジ



市木：クロマツ

写真集編集協力者 (敬称略)

飯島 十郎	小林 恵之助	永井 し か	朝日新聞社
池野 良之助	小林 健吾	西田 きくえ	芦屋警察署
石戸 八二	五味 清一	ハナヤ 勸兵衛	芦屋芸術学院
石橋 陽子	五味 富治	花岡 秋子	芦屋市商工会
井床 利平	阪口 綾子	原田 正二郎	芦屋神社
稲畑 汀子	阪本 昇	馬場 光平	芦屋保健所
井上 佐平	佐々木 澄子	左 吉宏	関西電力打出クラブ
今林 澄子	貞弘 純一	広瀬 忠子	甲南学園
上羅 芝山	佐藤 武英	福田 純治	神戸新聞社
江藤 喜一	庄司 美代子	藤川 祐作	滴翠美術館
大石 邦子	助野 八郎	水野 清孝	土地興業(株)
大森 一樹	仙賀 松雄	宮島 睦子	西宮市大谷記念美術館
奥田 竹四郎	高岡 政一郎	村地 泰造	兵庫県立近代美術館
奥山 泰康	田島 滋	森本 藤一	三菱鉱業セメント「松籟荘」
小野 高裕	田中 千代	山口 宏	雄松堂
小野 真樹子	辻井 弘	山下 英明	淀川製鋼所
河崎 美代子	辻本 勇	山中 文一	読売新聞社
岸科 忠雄	寺東 喜久子	山村 哲男	芦有開発(株)
北野 裕子	天王寺谷 忠左衛門	山村 安恵	
桑原 昭	鳥谷 常太郎	山村 吉隆	
小出 泰弘	中川 喜一郎	山本 新	
神足 泰宏	中川 キヨ	山本 徹男	
小阪 正一	中村 寿之	吉原 通雄	
小西 愛子	中山 正子		

主な参考資料

- 芦屋市史
- 芦屋市市勢要覧
- 広報あしや
- 芦屋市統計書
- 芦屋市水道通水50年史
- 芦屋市教育委員会20周年誌
- 芦屋市教育委員会30周年誌
- 芦屋の生活文化史
- 芦高15年史
- 芦屋観光協会創立40周年記念誌
- 芦屋郷土誌
- 芦屋警察60年の歩み
- 岩園小学校50年のあゆみ
- 海技大学校要覧
- 環境衛生協会30周年記念誌
- 観光文化の八都市
- 三田谷文庫
- 姉妹都市提携20周年記念誌
- 精小創立百周年誌
- 精道小学校創立80周年記念誌
- 全国高校野球大会70年史
- 宮川小学校創立50周年記念誌
- 山手小学校50周年記念誌
- 六麓荘40年史





ASHIYA

5つのだ円は、芦屋のアルファベット「A」と50年の築きあげられた歴史、さらに、未来への発展・向上の意味をふくめてシンボライズした。

## 芦屋 今むかし 市制施行50周年記念写真集

平成2年11月10日発行

編集・発行 芦屋市

〒659 芦屋市精道町7-6

印刷 凸版印刷株式会社

許可なく転載・複製を禁じます。





青島市地方志  
青島市地方志編纂委員會

青島市地方志編纂委員會  
青島市地方志編纂委員會  
青島市地方志編纂委員會

